

Japan Transportation Planning Association

JTPA

「駅」と「まち」の再構築

「駅・まち」提言 (第2編) 2019

公益社団法人 日本交通計画協会

駅・周辺地区まちづくり研究部会

はじめに

～2040年 次世代に向けた「駅・まち」再構築とは～

鉄道駅を中心とした都市の発展と駅周辺地区への商業などの集積は、地理的・歴史的にみて、特に我が国の大都市発展の大きな特徴です。

特に、1960年代～70年代の都市発展時代には、都市基盤等の最低限の機能・水準を確保するために、「シビル・ミニマム」や「計画標準」等を通じた都市経営が行われてきました。

交通結節点についても、鉄道施設、駅前広場、自由通路等ハード施設の整備に目が向けられてきた。これは急速な都市発展に対する、公共資本のサービス水準確保のために必要な対策であったと言えます。

一方で、人口減少社会の到来や、これまでの拡散型構造の都市から集約型の都市構造への転換（コンパクト+ネットワーク）の考え方などを背景に、今後の都市構造や交通結節点整備にあたっては従来の画一的な考えにとらわれず、限られる資源や空間を有効活用する知恵やアイデアにより、地域の実情を踏まえた整備が求められています。

本提言は、このような考えに基づき、今後あるべき鉄道駅とその周辺地区のまちづくりについて、これまで「駅・周辺地区まちづくり研究部会」で資料を持ち寄り、全国での先進的な取組事例の収集やそれを踏まえた意見交換における議論・アイデア等を整理し、特に高齢者が人口の1/3を占めると予測される2030年、総人口が9,500万人程度になると予測される2050年の中間にあたる2040年までの約20年間に行うべき「駅・まち」（再構築）づくりに資するアイデア集となる提言としてとりまとめたものです。

本提言が、今後の都市づくり、計画づくり等のヒントになれば幸いです。

「駅・まち」提言（第2編）2019について

「駅・周辺まちづくり研究部会」は、公益社団法人日本交通計画協会内に設けられた、駅等の交通結節拠点とその周辺のまちのあり方を研究する任意の研究組織で、平成15年に活動を始めました。活動開始以来の、各種研究や視察等を基に、「新たな駅まち空間づくりの情報集(H22.3)」を平成21年度に取りまとめました。

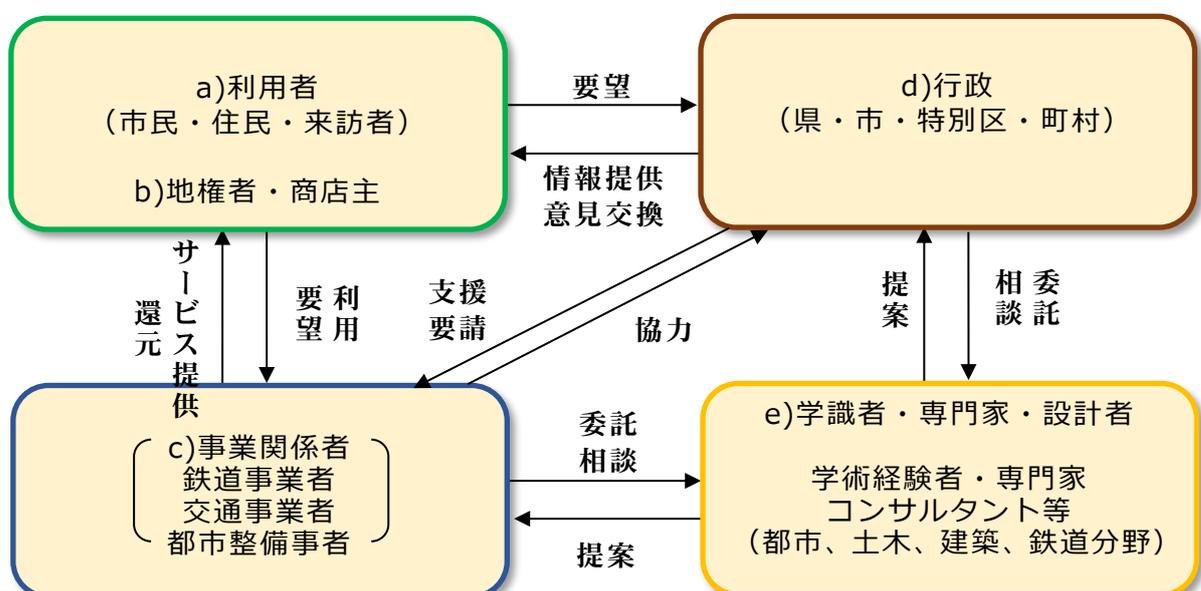
更に、コンパクトなまちの実現に向けた「駅・まち」の役割と、今後の整備の方向性について「駅・まち提言」2011を平成22年度に発表致しました。

この「駅・まち」提言2011を、提言（第1篇）として、今回の提言は、（第2編）に該当するものです。

提言（第1篇）では、「1.大都市圏のターミナル駅」、「2.大都市圏の小さな駅」「3.大都市圏の郊外駅」、「4.地方中核市・地方都市の拠点駅」、「5.地方中核都市の郊外駅」、及び「バスターミナル」等のタイプ分けを意識しつつ、駅前広場を含む駅周辺のまちは市民・住民の共有財産であるとの認識に立ち9項目の提言をいたしました。

これを受けて、夫々の駅や周辺都市基盤の整備がすすみ、高齢化や技術革新などの社会変動に対応して、都市の再編・再生の必要性が高まってきている今日、「駅・まち」の再構築に必要な視点等明らかにしたうえで、5つの提言と提言別の方策の手引きとして、その[ねらい]、[参考事例]、[実施上の留意点]を取りまとめました。

この提言が、下記に示した、関係者相互による「駅」「駅前広場」「周辺のまち」の総合的理解と将来に向けた活動に活かされることを望むものです。



本書の構成

